

# 要配慮者利用施設の避難確保体制について（事例紹介）

Evacuation securing system

ちば ひろき  
千葉 弘樹

Hiroki Chiba

## 1. はじめに

当施設は秋田県大館市の米代川堤防に接した場所に建設されており、平成19年9月の豪雨により河川が増水し施設入居者を避難させたことから、平成20年1月に非常災害時の対応マニュアルを全面改訂し、避難確保体制の見直しを行っている。その後も毎年のように豪雨等による河川氾濫の恐れに遭遇し、これまで数回、施設入居者を避難させる事態が起きている。これらの経験を踏まえ、当施設の避難確保体制と避難状況について紹介する。



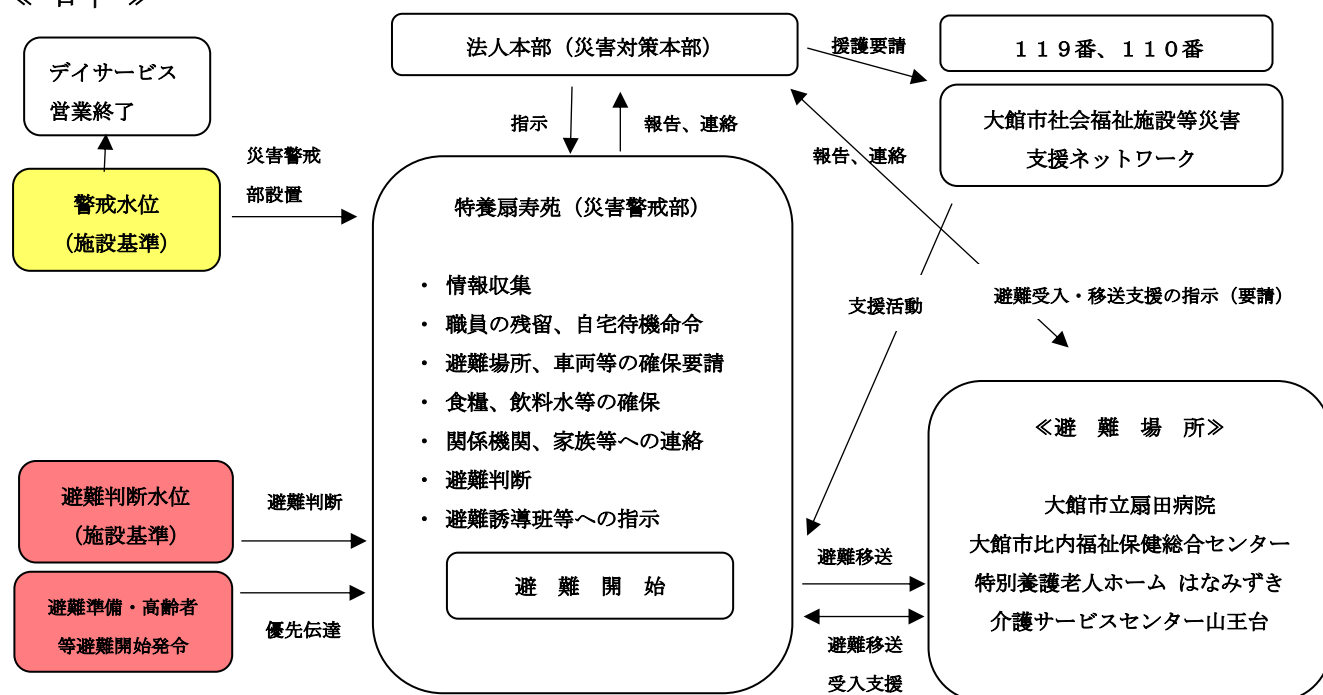
施設前の米代川

## 2. 敷地の施設（事業所）の状況

施設（事業所）	定員	職員数	
		日中	夜間
特別養護老人ホーム 扇寿苑	80名	約38名	6名
扇寿苑 併設短期入所生活介護事業所	25名		(内当直1名)
扇寿苑 高齢者グループホーム	18名	約9名	2名
扇寿苑 デイサービスセンター	20名	災害警戒部設置後は営業終了	

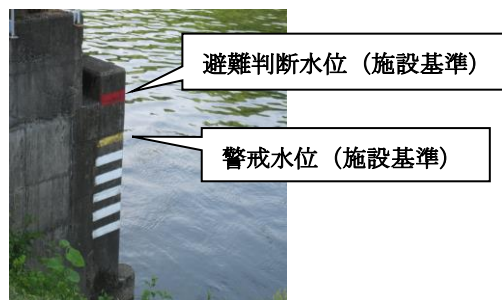
## 3. 避難確保体制について

《 日中 》



○ 災害警戒部の設置基準及び業務内容

米代川の水位が警戒水位（施設基準）に達した場合、特別養護老人ホーム扇寿苑に災害警戒部を設置する。業務内容としては、情報収集（川の防災情報、気象情報等）、職員の施設残留・自宅待機命令、避難場所・避難車両の確保要請、食糧・飲料水等の確保、法人本部（災害対策本部）との連絡調整、関係機関・家族等への連絡、避難誘導班への指示等を行う。



○ 災害対策本部の設置基準及び業務内容

災害警戒部設置後に米代川の水位が上昇傾向にある場合、法人本部に災害対策本部を設置する。業務内容としては、災害警戒部への指示、大館市社会福祉施設等災害支援ネットワーク等への援護要請、避難場所への受入・移送支援の指示等（要請）を行う。

○ 避難判断基準

米代川の水位が避難判断水位（施設基準）に達し、その後も増水が予想される場合もしくは大館市からの避難準備・高齢者等避難開始が発令された場合に避難を開始する。

○ 避難場所（距離・受入予定人数）

避難場所	距離（車での時間）	受入予定人数
大館市立扇田病院	330m（1分）	緊急時一時避難：123名
大館市比内福祉保健総合センター	ルート1：2.3 km（5分） ルート2：2.8 km（6分） ルート3：3.0 km（7分）	特別養護老人ホーム：50名 併設短期入所事業所：25名
特別養護老人ホーム はなみずき （平成26年7月 新設） ※ 法人本部	ルート1：2.4 km（5分） ルート2：2.9 km（6分） ルート3：3.3 km（7分）	特別養護老人ホーム：30名
介護サービスセンター山王台	ルート1：4.9 km（10分） ルート2：5.6 km（12分）	高齢者グループホーム：18名

避難経路：ルート1が通行止め等の時は、ルート2もしくはルート3で避難する。

○ 施設入居者の避難移送支援体制

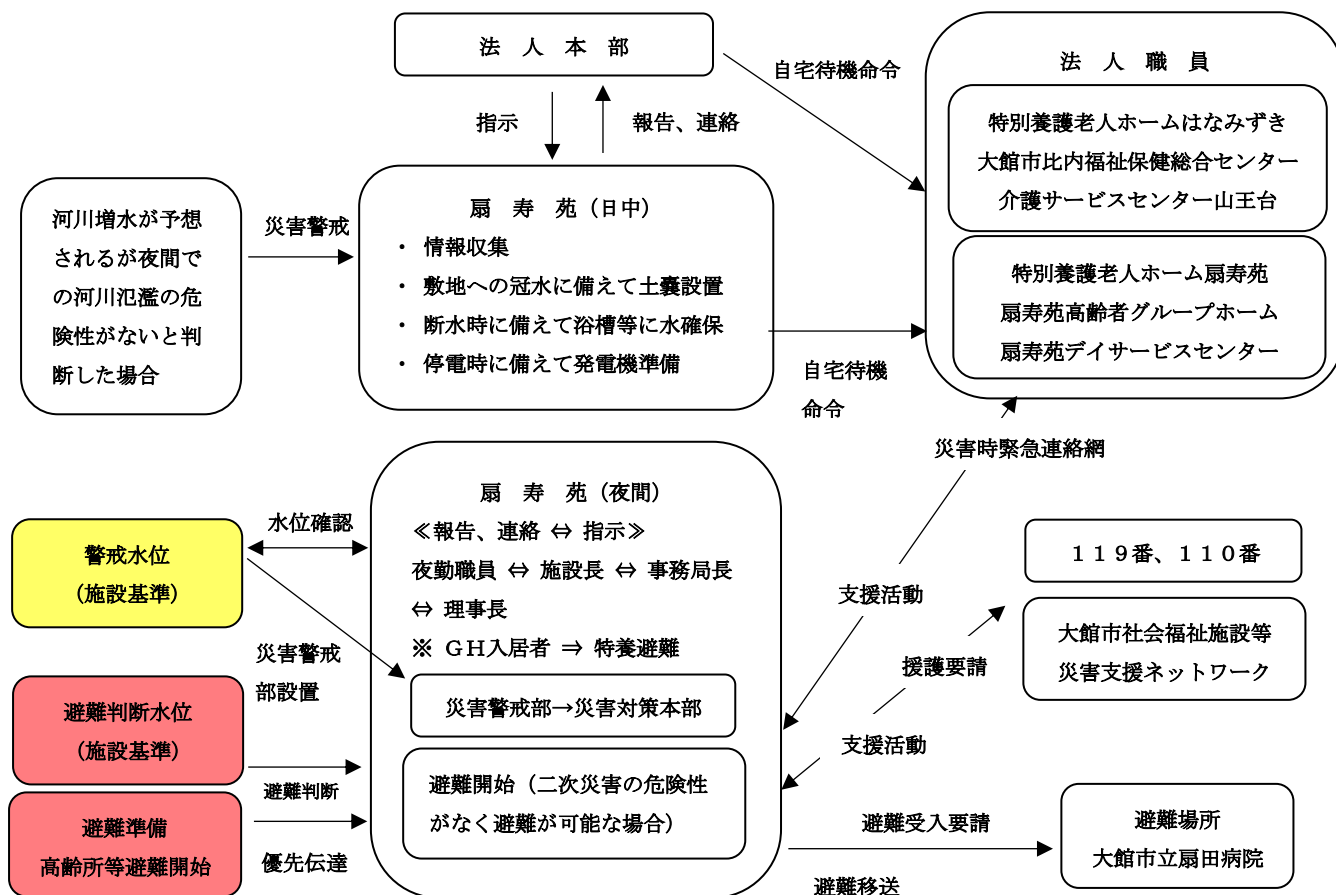
- ・ 避難場所（当法人運営）である大館市比内福祉保健総合センター、特別養護老人ホームはなみずき、介護サービスセンター山王台は災害対策本部からの指示により、避難する施設入居者の受入・移送支援を行う。
- ・ 災害対策本部から援護要請を受けた大館市社会福祉施設等災害支援ネットワーク施設（7法人20施設）は避難を要する施設入居者の移送支援を行う。

大館市社会福祉施設等災害支援ネットワーク

災害時等において、要援護者等のために支援活動や緊急避難場所の確保、避難者を受け入れるためのネットワークを構築し、災害時等における市民の安心・安全に寄与することを目的とし、平成19年12月に設立される。(7法人20施設)  
平成21年度から各法人を対象に、順次継続的に避難訓練等を実施している。

《 夜間 》

河川の増水が予想され、日中で情報収集した結果、夜間での河川氾濫の危険性は無いと判断し施設に残留する場合の体制



- 日中で敷地・建物への冠水・浸水に備え土嚢を設置、断水に備え浴槽等に水を確保、停電に備え発電機等を準備する。また、必要に応じて法人本部、特別養護老人ホーム扇寿苑から職員へ自宅待機を命じる。

○ 夜間は職員が河川を専用の灯光器で照らし水位を確認し、必要に応じて施設長等に連絡し指示を仰ぎ対応する。なお、河川が増水傾向にある場合には、高齢者グループホームの入居者は特別養護老人ホーム扇寿苑へ避難する。

・ 災害警戒部及び災害対策本部の設置

夜勤職員からの河川水位の報告を受け、施設長・幹部職員等が施設に駆けつけ、災害警戒部・災害対策本部を設置する。

・ 避難判断基準、避難対応

避難判断は日中と同じ基準である。避難可能な場合には、法人の自宅待機職員への緊急連絡網による駆けつけ指示、大館市社会福祉施設等災害支援ネットワークへの援護要請、119番・110番通報し、大館市立扇田病院へ受入要請し一時避難を開始する。一時避難後は状況に応じて、避難場所である大館市比内福祉保健総合センター、特別養護老人ホームはなみずき、介護サービスセンター山王台へ移動する。なお、二次災害の危険性がある場合には、施設内に残留し専門職へ救助を要請する。

#### 4. これまでの米代川の増水・氾濫等による避難状況

##### (1) 平成19年豪雨での避難（米代川氾濫）

###### 9月17日

- 16:00 災害警戒部・災害対策本部設置（設置基準まで水位上昇）
- 17:20 避難決定（避難判断基準まで水位上昇）
- 17:50 避難開始（避難場所：大館市比内福祉保健総合センター）
- 19:15 施設入居者全員110名の自主避難終了
- 19:20 避難勧告発令（氾濫危険水位5.3mを超え5.58mを観測）

###### 9月18日

- 4:00 現地確認（施設への浸水なく道路も通れることを確認）
- 8:30 施設断水（ポリ缶で施設内へ水を確保）
- 10:30 大館市から避難解除の連絡



増水した米代川

14:00 避難場所から施設入居者の移送を開始

16:00 施設への移送終了



9月17日 米代川氾濫時に冠水した施設前道路の翌日の状況

## (2) 平成25年豪雨での避難（米代川氾濫）

8月9日

10:00 災害警戒部・災害対策本部設置（設置基準まで水位上昇）

11:30 米代川の水位上昇（避難判断基準水位まで20cm位）

11:50 避難決定（施設敷地付近で河川氾濫し道路に水が流れ込む）

12:00 避難開始（避難場所：大館市立扇田病院、大館市比内福祉保健総合センター）

大館市社会福祉施設等災害支援ネットワークへ援護要請

13:00 大館市社会福祉施設等災害支援ネットワーク第一陣車両4台が到着、その後も順次車両が到着し避難誘導

14:00 施設入居者全員118名の避難終了  
（大館市立扇田病院：21名、大館市比内福祉保健総合センター：97名）

15:00 米代川の水位が避難判断基準水位より1m程下降したため、避難場所から施設へ入居者の移送を開始

16:20 施設への移送終了



米代川氾濫時の状況



施設前の道路状況



避難時の状況

## (3) 平成28年台風10号接近に伴う避難

大型で非常に強い台風10号が8月30日夜はじめ頃から31日未明にかけて本県に接近した場合、水害の恐れがあると判断し避難対応する。

8月29日

11:00 災害警戒部設置（台風10号の現況と予想について情報収集）

8月30日

10:00 災害対策本部設置（情報収集した結果、13時頃より自主避難決定）

11:00 避難時の必要物品を避難場所へ搬送

11:10 大館市長寿課（災害支援ネットワーク事務局）へ避難することを報告

緊急避難ではなく、避難先との調整を図りながら、施設入居者を徐々に避難させるため、法人内の車両で避難移送が可能であることを伝える（災害支援ネットワーク施設の援護要請はしない）

11:27 大館市に大雨、洪水、暴風警報発令

13:00 避難開始（法人の車両13台で移送）

16:00 施設入居者全員117名の避難終了

避難場所	避難人数
大館市比内福祉保健総合センター	特別養護老人ホーム入居者：53名 併設短期入所事業所利用者：19名
特別養護老人ホームはなみずき	特別養護老人ホーム入居者：27名
介護サービスセンター山王台	高齢者グループホーム入居者：18名



避難時の状況



避難場所の状況

20:30 台風10号が本県へ接近（大雨や暴風による影響は殆どなし）

8月31日

3:34 大館市で大雨、洪水、暴風警報解除（注意報に変わる）

6:30 現地確認し避難解除（河川増水もなく上流も平常水位）

8 : 0 0 避難場所から施設へ入居者の移送開始

1 0 : 5 5 施設への入居者の移送終了

## 5. おわりに

平成28年台風10号による水害では、高齢者グループホームが被災し、入居者9名全員が亡くなっており、これまでも高齢者施設が水害に巻き込まれる被害は繰り返されている。

水害は気象情報や河川の水位等の状況から、ある程度の被害が予測できる。そのため、施設入居者の大切な命を守るには、早め早めに避難行動することができる具体的な体制づくりと訓練の実施が必要である。水防法が改正され、要配慮者施設の避難確保計画が義務化されたことから、全国の施設で実際に行動できる計画が策定されることにより、人的被害を未然に防ぐことが出来るようになることを期待する。